

**【警察国家化】** 男の大学生（20）が  
女の高校生（17）にラブレターを渡して  
逮捕されたことについて考える！

どうもゆうです！

読者さん、こんばんは！！

さてさて、私は日本にいるとき、よく感じる事として

それが「日本はどんどん警察国家している」っていうのがあるのですが

日本というのはどこに行っても警察官が多いです。

警察国家ってのはまさに警察というのは国の暴力機関であるわけですが

そこに民衆が監視されてる感じ・・・

これが日本にいると

すごい感じる点なんですね。

それでこの前ですが私はすごいすごい驚いたのですが、

あるニュースがありまして、それが

「男の大学生（20）が女の高校生（17）にラブレターを渡して逮捕」

というニュースがありました。

びっくりしました。昔は大学生が

自分の年下の女の子にラブレターで

男がアタックするってのは当たり前のことであつたと思いますが、

今は「ストーカー」になって逮捕されるようになってきてます。

官僚たちがやりたいのが

1 社会統制

2 金融統制

なのですが、その社会統制の中に警察国家化というのは組み込まれますが

マレーシアに住んでいる自分にはすごい強く感じられるのだけど

日本の警察国家化はすごいのかな・・・と。

編集後記で！

=====編集後記=====

さてさて、この前ですが個人的に大変驚いた事象がありました。

それが

「男の大学生（20）が女の高校生（17）に  
ラブレターを渡して逮捕される」

というニュースですね。

これ、結構驚いた人も私以外にも多いようでネット上でも  
相当話題になっておりましたが、

いよいよ日本の警察国家化は深刻なものになってきたと。

ちなみにこのニュースは結構日本の起業家さんや投資家さんとも  
話していて

有名なニュースみたいなので、知ってる方も多いと思いますが  
福岡市西区の男子大学生（20）がストーカー規制法違反で逮捕された  
わけです。

「ストーカー規制法」とはなんか正義っぽいですが  
実のところ内容見ると、

かなり危険なニュースでして、この男の大学生20歳が  
17歳の高校生の子に交際を求める手紙、

だから「好きです、付き合ってください」みたいな  
ラブレターを書いて、それで

この女の子の自転車のかごにそれを入れたわけですね。

それであとはその子の働いているアルバイト先に行って  
プレゼントを渡そうとしたわけです。

どうもこの2回の行動だけなのですが、特に警告も何も  
なかったようですが

そこでいきなりこの男子大学生は警察官に詰め寄られて

「てめーはストーカーだ！私たち

「正義の味方」の警察官がストーカー規制法容疑で  
逮捕する！！」

となったわけです。

だから2回

それが西日本新聞で報道されたわけですがまあこれが

「え???ラブレター渡してプレゼントを働く先に渡しに行くだけで逮捕なの???」

ってことで、まあネットでもさすがにこれは話題になっていました。

私もこの事件、は小さな事件ではない、と察知して  
実際は私が昔から書いてるもっと大きな日本の警察国家化を  
象徴する出来事であるから  
かなり注目したわけですね。

それで、私のメルマガの読者さんはまあ10代から70代まで  
幅広く読んでいただいているのですが

おそらく20代後半~くらいの人からしたら

「年下の好きな女の子がいて、ラブレターなり  
プレゼントを渡してアタックする」

って結構普通だったと思うんですね。

ちなみに私は30代おっさんではありますが

私が10代とか20代のころは、大学生が高校生と  
付き合ったり合コンするなんてのはもう日常茶飯事で

というのは男ってのは大体が年下の女が好きなわけであって  
やっぱり男の大学生×女の高校生なんて組み合わせは  
ごくごく一般的でした。

そこから結婚した人たちも多いし、私なんかもやはり  
そういう彼女がいたものです。

んでやはり男が当時LINEもない時代に（メールはあった）  
女になんとかアタックするわけですが

そして玉砕したり、上手く行ったりするわけですが  
当時の男ってのそこで女性になんとか振り向いてもらうために  
手紙渡したり、プレゼント渡したり、ってのを当たり前にしていた  
わけですね。

・・・というか、これは私は今は海外に住んでる人間ですから  
海外の事情も分かりますが

このアタック方法なんてのはどの国でも大体共通しております、

やはりメールやらで告白ってのは男としてしょぼいってのが  
感覚としてありますから

日本以外の国だともっとすごい時があって、  
もう手紙の嵐、プレゼントの嵐でなんとか女性を口説き落とそう  
とするのが普通だったりします。

マレーシア人なんかもかなりアグレッシブですし  
さらに私がよくいる韓国なんかはおそらく男は日本に来たら  
全員ストーカーになってしまうのではないかと、というくらいで  
もう好きな女がいたら手紙や驚きを与えるプレゼントなどを  
相手に渡したりってのは今でも結構されてることですし

例えば感じとしてはその女性が働く先があったら  
その前のビルを借りて、ビルの管理会社にお金払って  
ビルの電気で「愛してます」みたいに照らして  
アタックするとか、そういうのが結構あったりしますよね。

また日本では考えられないだろうけど、デートしたら  
相手の安全を守るために家に送るのも当たり前みたいな  
価値観だったりします。

だから韓国の男と日本の女でよくあるのが

最初は日本の女も韓国の男と付き合ってるんだけど

そのうちそれがストーカーチックに見えてきて

別れてしまう、みたいなのは結構あるんだけど

ただそこまで女性に尽くすみたいのは結構当たり前だったり

するわけですね。

ただじゃあ日本人が日本で日本の女性に好きだからといって

他の国ではごくごく当たり前なラブレターを渡して、

それでプレゼントを渡そうと働いてる場所に行ったら

これはですね、今だと逮捕される可能性があるわけですね。

それで海外とかではごくごく一般的なラブレターとか

職場にプレゼントを渡すという行為ですが

これは上に書いたように私が20代30代のころは

「当たり前」でありましたから

そこでくっついて結婚した人たちなんて数え切れないでしょうし

むしろ今結婚してる大人で

「今の旦那と付き合う前に

手紙もプレゼントももらったことない」なんて人は

おそらく少数派ではないかな？と思います。

お見合い結婚とかは違うかもしれませんが、自由恋愛の場合

男は何かしらプレゼント渡したり、手紙を渡したりして

ハプニングを演出したがるものですから。

ただ、恐ろしいのが今回は20歳の大学生が17の高校生に

ごくごく以前は一般的だったアプローチ方法で口説いたところ

逮捕されてしまったわけでありませう。

それでこれはネットでもさすがに問題だ、ということで

声が大きくなっておりまして、

ネットの声としては沢山あるのですが

「ストーカー規制法もどんどん運用がおかしくな  
~~~~~

この法律ってあくまでもストーカーを取り締まる為の法律であって  
その利益は「殺人事件等に発展するのを未然に防ぐ事」だから

明らかにここまで来るとやり過ぎでしょ？」  
~~~~~

「つかもう、この国、ガチで駄目かもな。

これじゃ法律で人間関係破壊して  
~~~~~

遊びの部分を奪ってるようなもんだ  
~~~~~

北朝鮮みたいになってきてる。」  
~~~~~

「昭和の頃は当たり前だったよ  
1度や2度断られてもアタックし続けたら

両想いになって結婚するとかね

今の時代は冷めてるな～、ロボットみたい」

「積極的なブサイクだと事案になるとか普通にキチガイ沙汰だな  
年齢差も一般的にまったくおかしくない  
けどガチのヤバそうな真性ストーカーは放置してたりするんやで？」

(ゆう：この辺はイケメン信仰が強い日本特有のコメントだけど  
実際は大学生は結構かっこよかったという話もある。)

「こんなことばかり国がやってたら  
少子化も進むわ」

「人が人を好きになるという単純なことが罰せられるとは、  
なんて世の中なんだろうな

この国が減んだとしても非常に納得がいくし、  
歴史家は教訓としてそのことを語るであろう 」

「もう告白も出来ないなんて・・・」

「ラブレター渡したりとプレゼント渡そうとしたら  
犯罪になるんやね。  
もう、こわい世の中ですわ。 」

「警察に直接聞いた事あるけど、  
セクハラは法で取り締まれないけど、  
告白はグレーだからしない方がいいと言われたよ。

あとラブレターは完全にストーカー扱いだって。  
若い女性との交際に関する行動は控えるべきって感じかな。 」

「少子化の原因は政府だな 」

「前にテレビで19歳の女と25ぐらいの男のカップルで  
車の中にいて職務質問。

未成年と聞いて強気の警察がいて  
女が真剣な交際だと言って泣いたら警察

手も足も出なかったな。口調も変わったた 」

という感じで、大多数は思考停止してるので警察を擁護するもの  
が多いですが

やはりただそんな中でも上記のように今の法律の警察・行政による運用で危機感を抱いている人は増えてるな、という感じですよ。

ちなみにですが、実際に今いるカップルとか

もしくは結婚してる人らとかって

やはり付き合う前にラブレターなり職場にプレゼント渡した、渡されたって結構当たり前だったと思うんですね。

実際に芸能人の話なんかでも出てますが

堀北真希さんの旦那さんの山本耕史さんなんかは

ラブレターを40通渡してそれで堀北真希さんを落としている、わけです。

ラブレター40通ってすごいな・・・と私は思いましたが、

ただ山本さんの場合は12歳年下の堀北さんをなんとか

自分の嫁さんに、ってことで、惚れてそれで

ラブレター攻撃をしたわけですね。

堀北真希さんという日本でも有名な美人女優ですが  
やはり男から言い寄られることは多かったはずですが  
そんな中での山本さんの40通のラブレターで本気度が  
伝わって「他の男とは違う」となって  
落ちて結婚したってことですよね。

sondeこの堀北さんと山本さんのエピソードは有名ですが  
ただこれは芸能人の話だけど一般の男女間でも40通は珍しいだろうけど  
まあラブレター送ったり、プレゼント渡したりで  
女性にアタックするのはごくごく普通だと思います。

ただ、これが今の時代は

「国家が自由恋愛に立ち入って逮捕できるようになった」  
わけです。

だから例えば堀北さんの件で言えば

もし堀北さんが「ラブレターもらって気持ち悪い」とでも  
相談していれば今堀北さんと結婚してるこの山本さんは  
警察によって逮捕されていた恐れもあるわけです。

ちなみに今回警察はとにかく社会統制を行って

民衆の自由恋愛とか今まで自由だった社会での活動を

制限していきたいという欲望があるから

もう民衆の恋愛事情まで 監視して、介入して逮捕ということを行

っているわけですが

そこで17歳だから、という年齢で多くの人を納得させてる

わけですが

これは最高法規である憲法によって16歳からの婚姻年齢に

なっており、

なおかつ日本の歴史でいうと10代で結婚していたのが

私のじいさん、ばあさんあたりだと普通であったわけです。

もしこのまま行きますと、おそらくですが

20歳以下と結婚は禁止となりまして、

例えば22歳の男の子が19歳の女の子とデートして

チョメチョメしたら逮捕みたいなそういう時代にな

っていく可能性はありますよね。

少なくとも警察官僚たちはそうしたい。

それで日本人という民族は根性ある人たちもいますが

警察やら官僚に攻撃されて

ふにゃふにゃになる人が最近多いですから

上記の逮捕劇ははっきり言えば憲法違反の可能性が大いに

考えられるけどそこで行政訴訟を起こそうという

動きをする人も少数であるから

やはりこれからどんどん社会統制が強まって、民衆の生活に

国家官僚の暴力機関である警察ってのが入り込んでいくのだろう

というのは考えられますよね。

ちなみにこれは私が早稲田で学んだことだけど

これはとても重要知識なので私は、それらの知識が一部の大学の

人だけに共有されるのは間違いであると思うので

書くのだけど、「法律」とかありますが、これは

高校生までは「法律は守るべきもので法治国家では尊いもの」

と、教えられるますよね??

けど大学の政治学の授業では違って全く違う視点で法律が

論じられるのだけど、

「法律とは官僚の権限を強化するためのものである」

という「基礎」が教えられます。

これは重要な考え方なんだけども、日本人には義務教育段階で

この最重要知識を教えないわけですね。

例えば、道路交通法ってのがあから警察が

一時停止違反で切符を切って、その罰金を裏金作りに使えますし

また上記のストーカー規制法なんかを使うから

そこで警察の仕事の範囲が拡大して、警察などの

官僚組織が拡大していくわけですね。

あくまでも自由主義と民主主義が合体したのが

「近代デモクラシー」といいまして、これは小室直樹先生の

本を読んでいただければと思うけど

そこで想定されてるのは

「暴走されてる行政を自由主義および民主主義で

民衆がしぼりつける」

であります。

だから関係値としては「暴走する行政（警察などの国家）」

と、

「とても弱い弱い民衆」

という関係値で政治学ってのは成り立っているわけです。

それで法律が沢山できていきますと、ストーカー規制法が

分かりやすいけど

今まで民衆間で自由であった

「ラブレターを渡す」とか「職場にプレゼントを渡しに行く」

とかそんなことまで、

国家が干渉するようになって逮捕されるようになってしまう

わけであります。

実のところ、恐怖国家というのはそのようにして完成していく。

だからこの動きは恐ろしいことなんですね。

以前に武田鉄也の「101回目のプロポーズ」ってのがあって

私たち30代の日本人はこのドラマをよく見ていたんですね。

そこでまさに「不細工な武田鉄也演じる主人公」が

「美人だけど悲しみを抱えるヒロイン」に猛アタックするわけです。

もう何度も何度もアタックする。

この101回目のプロポーズというドラマは当時

社会現象になったくらいで、

最後の告白シーンで武田鉄也演じる主人公が

トラックの前にいきなり走り出すんです。

そこで手を広げてトラックの前に立ちはだかる。

そしてトラックは急停止してトラックの運転手に武田鉄也が

「ばかやろー」って怒られるんだけど

そこで武田鉄也演じる主人公が最愛の人を亡くした

ヒロインに向かって

「僕は死にましえん！だってあなたが好きだから」

という名台詞を言うんです。

これがもう日本中の涙を誘った。私が子供のころの

ドラマだったけどやはりこのシーンは私の脳裏に焼きついている。

ただ・・・今はこのドラマって再放送ってまずされないわけですが

それはやはりストーカー規制法ってのができて

今だとこの101回目のプロポーズっていうドラマは

NGなんだと思いますよね。

たぶん、今のドラマなら、現実的に考えればストーリーは

上記のようなストーリーではNGで、OKなストーリーは

「不細工めの主人公が

告白を何度かヒロインにして3回目で警察が出てきて逮捕されて

その警察官が「ストーカーから守ってくれた勇敢なヒーロー」になって

ヒロインと結婚する」

っていうドラマになってしまうのかもしれない。

もう北朝鮮・・・（笑）

けど今は本当にそういうストーリーじゃないと放送できなくなってる  
のではないかな、と思ひまして、

101回目のプロポーズなんかは今だとアウトなんでしょう。

ちなみにJPOPってのは90年代がアジアの人にも  
人気なんだけど、

(2000年代以降はJPOPも既得権益化して衰退して  
今はKPOPをアジアの人たちは聞いている)

この90年代のJPOPの歌詞ってのは結構すごいわけですね。

「今から殴りに行くぞ」とか、

「バイク盗んでただ走る」みたいな

そういう表現がよく使用されておひまして、

これはまあ今で言えば良くないことなんだけども、

ただそこに人間性があるって詩があるって、

エッジの利いた表現になっていたりする。

例えば今の西野かなさんの歌詞で

「今から好きな彼を奪おうとするあいつを  
ぶん殴りに行こうか」っていうのはまずないと思うけど

90年代のJPOPってのはそういう表現がまだあるわけですね。

だから表現方法のエッジがやはり鋭くて、

当時JPOPは今の音楽ではありえないくらいの影響力を  
持っていた。

その後衰退して、世界的にはKPOPになっているのですけども。

これは音楽やドラマだけに限らずあらゆる表現規制とか言論規制が  
日本で進んでるわけですが

もう人々はいまや官僚や役人の顔を見ながら生きることしか  
できなくなっているわけです。

それで私が日本にいて驚いたことがありまして、

それが「レストランに警察がいた」んですよ。

私は日本にいるときは自分が株主であるレストランの視察というか  
まあ見学のために食事取りに行くんだけど

これは結構大事で 集客具合はどうか？とか店員さんの状況はどうか？

とか、新メニューはどうか、とかまあ

結構色々見るんです。

自分が株主でありますから。

ただびっくりしたのが、この前そのレストランに警察が常駐して

いるわけですよ。

「レストランに警察がいる」って、他の国ではまず見ないことで

まさに拳銃を持った警察官がとくに事件があったわけでもないのに

そのレストランにいるわけでありまして。

そんで最近のレストランはやはり人件費とかの問題もあるから

人数が少ない中回していることが多いわけですが

そこでチーフを捕まえて、警察官が色々と尋問なりを

してるんですよ。

これは警察官僚たちが現場の警察官にそれを強制してるのだけど。

だから店内はやはり異様な感じはあって、警察官が

制服で拳銃持って店に上がりこんでくるから

みんな客たちはちらちら警察官を見ながら落ち着かないで  
食事取ってるわけですよ。

当然こんなの繰り返されたら売り上げ落ちますよね。

「警察がいるからこのレストランは安心だ」なんて思って  
レストランに入る権威主義者は少数であって

実際の話はレストランで自由に食事しながらベラベラしゃべったり  
パソコン広げて仕事したりしたいから  
レストランにお金落としてくれるわけで

それが株主利益にもなるわけですけど

ここで警察官がレストランの入り口に立ってるわけです。

当然新規客も入りづらいし、さらに忙しいチーフが  
警察官の相手させられているから、

店も回らないで注文が取れなかったりするわけです。

んで私は疑問に思って

「なぜ公的部門の警察の君が私的企業である

民間施設のこのレストランに勝手に入ってきてるのだ。

通報があったならば警察官は来る義務があるけども

通報も何もないようだけども

拳銃持って制服の君が店の入り口にいたら

店内が萎縮するじゃないか。

たぶんあなたも上司の命令だから逆らえないんだろうけども

これはグループの役員や株主たちに了承を得てのことですか？」

って聞いたんですけどそういうわけでもなく

ただただもう最近では民間施設まで警察官が「立ち寄る」ことに

なっていると。

そう命令されていると。

ちなみに実はこれは問題になっていて

以下のような記事が昔あった。

歓楽街を見回る警察官に 500 円で食べ放題を提供する店も登場

[https://www.news-postseven.com/archives/20111028\\_66967.html?PAGE=1#container](https://www.news-postseven.com/archives/20111028_66967.html?PAGE=1#container)

要するにここで警察官が「みかじめ料」みたいな感じで

今まではそれが暴力団であったけどそれが警察官になってきてると。

ここで上記のポストからの引用で

「暴力団が来うへんようになった代わりにポリさんが

よう顔をだすようになったんです。

さすがに制服で来ることはないけれど、

“なんか困ったことはないか”と直接、店にまで廻ってくるんです。

お礼代わりに料金をサービスしていたんですが、

あまりにも来る回数が多くてね（笑い）。

月6回も来るようになると、うちみたいな安い店だと

結構きつくなりますね。他のオーナーも同じようなこといって、

『無料で飲食を提供したら贈収賄になるから、

ワンコイン（500円）で食べ放題にしとる』と語ってました。

警察官からサービスを要求されることはない。

あくまで、こちらの気づかいなんやけど、なんか、

みかじめ料やタオル代とそうは変わらん気がするね」

ということを飲食店のオーナーさんが言ってるわけですが

私はこれを警察官と話していてその下心を

強烈に感じたので追い払ったのですが

実のところ、最近は飲食店って警察官がやたら来るようになって

萎縮してきている現状はあるんですね。

ちなみに上記2011年時点ではまだ制服で来ることはなかったけど

もういまや開き直って、拳銃持って、

みんなが楽しく飲み食いしてるところに警察官がやってくるように

なっている。

これは日本のあらゆるところに見られることで、

例えば 駅の改札の前に警察官が配置されているわけです。

これは私が若い頃はなかった。

けど最近は何の駅行っても、時々、警察官がそこに立ちはだかつて

民衆を「監視」してるんです。

ちなみにその警察官の平均給与800万円くらいってのは税金であります。

それで私は駅で偉そうに監視してる

警察官や電鉄会社の人にも聞いたのだけど

どうもそれも上司に命令されてるわけで電鉄会社はそれを要請してるわけではないんですね。

すなわち電鉄会社も悪いところではあるけどそれは

断れない状況で、警察官の仕事を増やすために改札前に警察官を置くように「要請」されてるから、

しぶしぶそれを受け入れてると。

それで面白いのがその近い警察署なんかを見に行くと

「警察官が足りないから募集中！」みたいに警察官募集してるわけです。

それは足りませんよね、だって、自分たちで

強引に社会的価値を作り出さない仕事を作り出しているのだから。

例えばですが上記20歳の大学生が逮捕された事件でも

これは今までは警察が介入することではなかったし

あくまで当事者間の話でした。

が、ここで警察が介入できるとなりますと、ストーカー規制法を理由にして警察官の増員が図れる。

すなわち「警察国家化」を進められるんですね。

だからまさに法律は官僚や役人の権限を拡大するためにあるという大学で教えられる状況そのものになってきているわけですが

やはり日本の今の警察官の多さは異常であるわけです。

が・・・日本で警察官が多すぎるってのは外国人たちや海外に住んでる日本人は体感的によく知ってることだけど

日本国内に住んでる人はそれが当たり前だと思ってます。

私が以前ノルウェーの人に言われたのが

「日本は警察官が多すぎる、なぜだ」ということですが

これは外国人たちの至極真っ当な感覚で

というのは例えばマレーシアでマハティールが勝利して  
民衆が高速道路で盛り上がってるっていうのを

写真でこの前私が撮ってメルマガで流しました。

これですね。

(写真) マハティール勝利で盛り上がる民衆たち  
<http://yuhfx1.com/gazou/malay/mahatirwin17.JPG>

<http://yuhfx1.com/gazou/malay/mahatirwin18.JPG>

それでここでは暴力行為もなんもなかったんだけど  
みんなただ楽しく旗を振り回していて、

写真のバイク乗ってる人もまた

マハティール勝利で大声出していたんだけど

写真だと分からないかもだけど実はすごい平和的な  
雰囲気だったんです。

それで数え切れないほどの人がいたのだけど

じゃあ警察のパトカーは何台か??

というと本当に3台4台だけなんですね。

いや2台かな。まあほんと警察自体を全然見ないわけです。

けど治安は良好。

これが海外の状況であったりするから、やはり外国人が  
日本にやってくると それこそ民間施設とかにも警察官が  
いたりするし、

また、道を歩けばパトカーに当たるっていうくらい  
警察が多いですからびっくりする人はびっくりするわけですね。

それでこれは日本語ではあまり検索エンジンに問題として  
上がってこないけど

英語圏では「なぜ日本ではこんなに警察が多いのか」って  
話題になっていて

「大都市では東京は最も多くの警察官を抱える」

というのが記事になってたりします。

英語ですけども。

<https://www.japan-talk.com/jt/new/tokyo-has-more-police-than-any-other-city>

この記事ではニューヨークよりも東京の警察は多くて

不思議だ、ってことで記事になってるけども

これはやはり外国人たちも日本に旅行して不思議に思うらしくて

記事にしてるんですね。

ただどうもこのあたりの英語記事では東京の警察官の人数の多さが

異様であるっていう内容であるから

日本語ではそれは日本人に伝わらないようになっております。

だから海外の人から見てもどうも、日本の警察官の多さは異常に

見えるわけですが

これは明確に日本が警察国家化しているってことですね。

最近「立ち寄り、見回り」ってことで警察官が

民間施設まで立ち寄る状況になっておりまして、

本来は礼状がないと民間施設やらには入れないはずですが

その礼状主義ってのも有耶無耶になってきておりまして

どんどん民間のあらゆる場面に警察が侵入しだしているわけです。

実のところ、これが統制の一環でして

1 社会統制

2 金融統制

とありますが、まさに社会統制の一環であるわけですね。

ちなみに警察国家化を肯定する人が日本では多いけども

本来警察国家体制というのは全体主義であったりとか

または社会主義、共産主義で出てくる体制であるから

本来共産主義とかそっちの思想になってくるわけですが

最近ネットウヨたちはこの警察国家化を支持してると。

保守とは名ばかりで単なる極左が保守の仮面を

被ってるのが彼らだ。

それで最近では民間の若者たちの恋愛にも  
警察が踏み込んできているってことですね。

今まで民衆の間で当たり前だったラブレター渡すとか、  
プレゼントを贈るってのはもうストーカーになってしまう  
可能性もある。

また、山口達也報道はそういう意味で重要なんだけど  
大衆に「キスは逮捕される可能性がある」って刷り込みを  
発生させているのは間違いないんだけど、

今の若い人はラブレター渡しても逮捕されるかもしれないし  
LINEを沢山送ってアプローチしたら逮捕されるかもしれないし  
プレゼント贈ってアプローチしたら逮捕されるかもしれないし、  
またキスも許可を取らないとしたら危ないし・・・

ってことでもうがんじがらめですよ。

ここで少子高齢化進むのは当たり前ですよ、ほんと。

政府というか官僚は嘘つかないで

「少子化対策」なんていわないで

「本当はがちがちに民衆の恋愛もしぼりあげて

少子化進めたいんです」といえばいいと思う。

ちなみに国によってはこんな警察の横暴があろうものなら

例えばオランダでこんなことがあれば

大問題になりますよね。

彼らオランダ人は根性入ってますからこんな横暴を

もし国家の暴力機関である警察が行えば

多くの人が立ち上がるでしょう。

しかし日本はそうはならないからどうもこれから

メルマガで昔から書いてきたように

警察国家化が進んで行くと思われます。

ちなみに最近の若い人に出てきてる傾向なんだけど

これは私聞いて知ってるんだけど

若い20歳前後の男性の中には女性とキスする時に

「キスしていい??」と

「許可」を求める人が結構いるんだそうですね。

これは実際に私は聞いたけど最近

「キスで許可を求める男が多い」んだそうです。

女性としては興ざめですよ。 「キスしていい？」

なんて聞かれて「はい、キスしていいです」といって

キスをするってそれはまあ冷めるんじゃないでしょうか。

けどこれは若い男性に非があるとはいえないわけで

彼らも何かあれば逮捕されるかもしれない、という中

アプローチしてるわけですから

はっきり言えば命がけですよ。

だから彼らもちゃんと事前に許可を取ってるわけです。

そのうち許可してくれたのを録音する男も

現れるかもしれない、けどこれは冗談じゃなくて

本当にそうなると思う。

だから最近若い人っていうのは許可を求める人がやたら

増えてるのだけど

これは大きくは官僚社会主義がどんどん進んでしまってる

弊害として見られる傾向です。

ということで日本は

恐ろしい国になってきたなと私は思うんだけど

どんどん警察が民間のプライベートな部分にまで

介入していき、

統制を進めてきておりますね。

いずれもう人々は誰かと接する時でも許可をとるのが

当たり前になって、お互い警戒しあって相互監視する社会になっていく

と思われます。

恐ろしい相互監視の警察国家化ってのが最近進んでおりますね。

ついに、ラブレターを渡してプレゼントを渡すだけで

逮捕される事例が出てきたってことで

まあ私は考えさせられました。

日本の民衆の自由はどんどん官僚機構や役人たちが

増長することで狭まっております。

そんな社会が進めばまさに言いたいことも一切言えなくなりまして  
例えば101回目のプロポーズみたいなドラマは禁止されるわけで  
また女性にアプローチする前に許可が必要になるわけで

警察にプライベート全てを見張られてる感覚で生活する形に  
なってしまいますね。

が、これが社会統制というもので、まさにそれを  
官僚たちは綿密に進めているってことです。

この辺は大きな日本の問題なので、  
もう無視できないレベルに達してると言えますので  
考える必要があると

私は思いました。  
それでは！

ゆう

追伸・・・そしてまさに

これが私が会社の

警察天下りのコンプライアンス部と戦っていたところなんだけど

彼らは「許可」を求めさせたがるんですよね。

例えば営業マンならば

「今から〇〇の営業するのですが営業してもよろしいでしょうか？」

と聞くように言われるわけです。

そんなのでYESという人は実際ほぼいないわけですが

警察の天下りの企業のコンプライアンス部ってのはそういうのを

求める性質があるわけです。

例えばどこか服屋さんでウィンドウショッピングをされていて

店員が「今からこの服をあなたに営業して売りたいと思うのですが

お時間10分よろしいですか？」なんて言ってきたらみんな去りますよね。

それで当然、現場の営業マンたちから

「そんなことしていて

契約が取れるわけないだろう。警察の天下りだから

自分で営業もできないくせに上から目線で指導してくるな」

という声が出るわけですが

これを警察の天下りのコンプライアンス部が反抗的な社員たちを潰す  
ということをやっていたものです。

当然そこで企業業績は悪化するわけですね。

実のところ、日本の企業の多くはこの構造で業績悪化してる企業が  
多いです。

だから官や役人が増長してあらゆる分野にウイルスのように  
ばい菌のように侵食していくと、

民間経済の活気は失われるし、人々の目は死んでしまうわけです。

ただこれが社会主義とか共産主義の体制でありまして

今まさに日本はその方向を突っ走っておりましてこの動きは  
危険だな〜と私は思います。